

平成28年度 自己評価表

愛媛県立南宇和高等学校
学校番号(49)

教育方針	自由闊達で進取の気風を持ち、広く高い知性を求めて深く学び、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成する。	重点目標	起こせ！ イノベーション
------	---	------	--------------

※参考 南高マニフェスト —地域と共に伸びる南高創り—

- (1) 地域教育機関との連携強化（小中高が連携した取組 5回以上）
- (2) 地域に開かれた南高づくり（公開授業への見学者数 延べ100人以上）
- (3) 積極的な地域交流と地域資源の有効活用（地域交流生徒 延べ500人以上）

—学びの質を高める南高創り—

- (1) 学習モデル提示による家庭学習の強化（家庭学習時間 2時間以上）
- (2) 自らが考える力を伸ばす学習の定着による希望進路の実現 100%
- (3) 基本的な生活習慣の確立による学習意欲の向上（1か年皆勤者数 250人以上）

領域	課	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教務	○学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間 2時間以上 ・家庭学習のための学習モデルの提示 全学年 	B	学習モデルの取組等により、9月の家庭学習時間平均は、昨年度約89分、今年約104分となり、全学年で約15分間学習時間が増加した。	学習モデル作成が家庭学習時間120分以上につながるよう様式、実施方法及び回数を工夫する。また、学習合宿の内容や実施時期を検討する。
		○教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業満足度 90%以上 ・公開授業への見学者数 延べ100人以上 	B	「授業内容について先生の説明が分かりやすい」と答えた生徒は90.8%となった。公開授業の見学者数も目標を達成できた。	教員の授業力向上の取組の一環として、教科会を時間割に位置付け、定期実施をする。公開授業については見学者数を1割増やす工夫をする。
生 徒 指 導	生徒	○基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤率50%以上 ・身だしなみ再指導生徒15%以下 ・気持ちのよい挨拶ができる生徒100% 	B	基本的生活習慣について具体的な指導と共通理解により皆勤率50%以上、身だしなみ再指導者15%以下は現時点で達成可能な状況である。気持ちのよい挨拶も90%以上の生徒が肯定的評価をしている。	居場所づくりや絆づくりを推進し、学校のルールに対する理解を深めていくことで、自主・自律の機運が生徒の中で高まるように改善を続ける。
		○特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の取組に対する生徒満足度80%以上 ・学校行事の生徒充実度100% ・学校行事への積極的な参加100% 	B	生徒の意見を取り入れたり、生徒会が中心となって運営したりすることにより90%弱の生徒が肯定的評価をしている。	時間や場に応じて行動できるように環境を整え、生徒の声をさらに取り入れた行事運営を行うことで帰属意識を高め、応援する姿勢も養わせる。
進 路 指 導	進路	○就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職講座・面接指導の充実を図り就職決定率 100% ・進路実現が達成できるための外部講師講話 年2回以上 	B	100%の就職決定率だが、過年度と比べて、生徒の第一希望の就職先ではないものが多かった。就職講話や面接対策講話などを行ったが、効果的でないものもあった。	生徒が第一希望の就職先に就職できるように、基礎学力の向上や効果的な面接指導・就職指導を行っていきたい。講話については、生徒のニーズにあったものを検討していく。
		○進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・面接・小論文指導の充実と学力の定着を図り進学決定率 100% ・進路実現が達成できるための外部講師講話 年2回以上 	B	各先生方に協力していただいているが、学力の定着が十分ではない。進路講話や進路ガイダンスなども行ったが、生徒の実態に即していないものもあった。	生徒の志望校進学のためには、基礎学力を安定させ、生徒の実態を的確に把握し、個々にあった指導を行う。講話やガイダンスの内容など、生徒のニーズにあったものを検討していく。

教	総務	○PTA活動の活性化	・PTA活動への参加率（延べ数）50%以上	C	PTA活動参加率は42%であった。目標は達成できなかったが、予定の活動に多くの方が参加・協力していただいた。特に体育祭では自主的な活動が見られた。	生徒減に伴う地区PTA役員の数の見直しを行い、理事会を含めて活動の活性化のための意見を多く集めていきたい。
	図研・情報	○読書による幅広い教養と視野の育成	・生徒一人当たりの図書貸出冊数 6冊以上 ・一日当たりの図書館利用生徒数 20人以上 ・研究授業や教科会の充実と常に新しい指導法などの研究	B	図書館の開館が昼休みと放課後の時間であり、なかなか思うような貸出や利用ができてはいない。アクティブ・ラーニングの指導法などは各教科で研究が進んできている。	図書館の管理上、生徒のみで運営する方法を検討すると同時に、本を読む習慣を啓発していく。今後とも、教科会の充実をはかりアクティブ・ラーニングを研究するとともに、生徒の学習意欲を高める指導法や実力がつく指導法の研究を行う。
	人権・同教	○人権・同和教育の充実	・学校評価における「人権の大切さを学び、それが日常に生かされている」の項目で生徒の評価3.5 ・つくし会、愛南町人権ふおーらむ、愛南町職員・教職員研修会への参加 全員1回以上	B	生徒の評価は3.3、目標には達しなかったが昨年度よりは0.1上がった。「つくし会」への参加率が低く、1月末の時点で参加していない教職員10名いた。	生徒が人権だよりや人権作文で寄せてくる意見や感想をより有効に活用する。つくし会参加の意義について校内で研修会を行い、その理解の徹底を図る。
	保健環境	○安全・安心な教育環境の整備	・各清掃場所に適切な数の清掃用具の確保 ・安全点検 毎学期1回以上 ・生徒・職員の健康診断の実施	B	学校訪問に向けて、事務課の協力のもと清掃用具の確保を徹底して行った。特に窓拭き用のスクイジーの購入は大変効果があった。安全点検、健康診断の実施については特に問題はなかった。	次年度も事務課と協力して清掃用具の確保に努めていきたい。健康診断で要精密検診の結果が出た場合、早急に病院での検診を勧めるとともに、その結果を保健室に報告するよう呼びかけたい。
育	教育相談	○特別支援教育の確立 ○学校カウンセリングの充実 ○学習環境の整備、教職員の資質向上	・生徒一人ひとりの障がいに応じたきめ細かい個別支援・個別教科支援の確立 ・学年団を中心に、担任、学年主任、スクールアドバイザー、養護教諭、外部機関との連携を図り、生徒の実態を把握する ・研修会・会議等で教職員の資質向上を図る	B	支援が必要な生徒に対して個別支援・個別教科支援計画の作成を行った。生徒の実態を把握するために、学年団、学年主任を中心に担任、養護教諭、スクールアドバイザーと連携を図った。また、研修会を1学期に実施して教職員の資質を向上した。	支援が必要な生徒については、早期に個別面談を実施して、保護者と連携を図り個別支援・個別教科支援を確立する。学年団、学年主任を中心に担任、副担任、スクールアドバイザー、養護教諭、外部機関と連携を図り、生徒の実態を把握する。1学期に研修会を実施し、教職員の資質向上を図る。
	農業	○基礎学力の確実な定着と実験実習の充実	・予習、復習課題の設定と実習記録簿の期限内提出 100% ・プロジェクト発表校内大会の参加 年1回以上	B	実習記録簿の期限内提出率が約85%となり効果があった。プロジェクト活動やコンテストにおいては、1年生から挑戦する生徒が出てきた。	教員の授業力向上、実験実習の充実の取組の一環として、他校や企業への研修・見学を実施し、プロジェクト学習を充実させる。
	事務	○教育環境の整備	・修繕及び備品等購入の要望調査を行い計画的な予算執行を行う。 ・事務職員の目視による施設設備の安全点検を行う。	B	県へ予算要求し、修繕・備品の購入ができた。また、施設、設備の早めの修繕・改修が行えた。	教職員との連携を密にし、修繕箇所等の修繕及び施設設備等の充実に努める。
般	1学年	○基礎学力の向上と充実した学習への取り組み ○進路目標の早期決定	・皆勤率65%以上 ・ホームルーム担任との面談実施 年間5回以上 ・漢字テストクラス平均 80点以上 ・地域交流参加生徒100%	B	皆勤率は目標を達成することができたが、基礎学力の向上と進路目標の早期決定については、課題が残った。	個人、クラス、学年とそれぞれにおける目標到達度を学期ごとに確認させるようにする。進路目標を早期に決定するためにアドバイスができる時間を設定する。
	2学年	○自己実現に向けた進路研究と進路決定	・皆勤率 60%以上 ・進路室等を利用した進路研究実施 学期2回以上 ・ホームルーム担任との面談実施 年5回以上 ・漢字テストクラス平均 80点以上	B	皆勤率は、昨年度に比べて良くなっている。進路指導については、まだまだ意識が低いのでこれから意識改革をしたい。	学校生活に目的を持たせると、自ずと皆勤率は上がってくる。進路意識の高揚を図るため、さらに進路課との連携強化を図っていきたい。
	3学年	○学校と家庭の連携強化による進路実現	・進路面接実施 年3回以上 ・担任との面接実施 年5回（三者面談含む）以上 ・「総合的な学習」を通して進路意識の高揚を図る	B	進路決定のために、「総合的な学習」を通して進路意識を高めることができた。進路面接、担任との面接など、1年を通して目標に掲げた回数以上に実施することができた。	将来の目標決定を早くし、就職をするにしても、進学をするにしても、早めの準備、備えが必要である。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。